

II 瀬戸の魅力



「瀬戸」の魅力とは

■市民にとってはあたりまえ、でも外の人からみるとすごい。

瀬戸は本当に「なにもない」「おすすめできない」まちでしょうか？

瀬戸は、「せともの」の由来となる やきものまち。瀬戸に暮らす多くの人々が、「ツクリテ」「ツカイテ」「ツナギテ」として一緒にまちをつくっています。

そんな暮らしは、瀬戸の人にとってはあたりまえ。しかし、外の人からみるとすごいこと。

ツクリテ

やきものなど地場産業等の振興や飲食の提供等を通じて、瀬戸の魅力を生みだし、地域経済・地域コミュニティの活性化を担う人たち

ツカイテ

もの、ひと、歴史、文化、豊かな自然等を、自身の暮らしに取り入れ、楽しむ人たち

ツナギテ

瀬戸の魅力を、自身の暮らしに取り入れたたり、紹介する人たち

魅力① 千年の歴史を育んできた「せともの」

瀬戸では、世界的にも例を見ない千年以上も連綿と続くやきものづくりが行われています。飲食器にとどまらず、便器、瓦、タイル、碇子、ノベルティ、ファインセラミックスなど多種多様な製品で、日本人の生活・文化を支えています。やきもの製造に携わる人が多く、その土壌を背景として、やきもの以外のツクリテも各地から集まっています。

魅力② 陶都を感じるまちなみ

瀬戸は、やきものづくりの発展にあわせて、まちなみが形成されてきました。市内の各所には窯元の工房等が多くあり、窯道具を積み上げて作られた「窯垣」など瀬戸独特の美しい幾何学模様の景観や陶製の橋、建物を彩る陶壁があるなど、まちの随所にやきもの産地としての歴史や伝統、文化を感じることができます。

魅力③ 個性的なまちぐらし

千年以上続く歴史の中、ツクリテたちが時代の流行を敏感に感じ取り、その時代の最先端の技術革新を繰り返し築いてきたものづくりの空気が瀬戸の暮らしに息づいています。身近にあるものづくりや豊かな自然を背景として、自分らしい、上質な暮らしが実現できます。

魅力④ 大都市に近い自然 「里山」

名古屋の都心から電車で約40分あまりの距離にありながら、瀬戸には豊かな森林が広がっています（市域の約6割）。その森林は、1000年以上続くやきものの文化や歴史の中で、薪として活用され、先人たちによって再生を果たしてきました。瀬戸の森林には、集落に近く、人との関わりによって多様性を維持してきた「里山」があり、希少な生物たちも生息しています。

2005年に愛・地球博が開催された瀬戸には、そのテーマであった「自然の叡智」が大切に引き継がれています。

魅力⑤ ツクリテが身近にいる

瀬戸の暮らしの身近にツクリテがいます。陶芸家だけではなく、ろくろ師、絵付師、原型師、製型師、鋳込師などの専門職人がやきもの産業を支えています。また、やきものだけでなく、ガラスや木工、デザインなど幅広い分野で活動する多くのツクリテと出会えます。

魅力① 千年の歴史を育んできた「せともの」

□せともの

陶磁器の総称である「せともの」の語源にもなった「瀬戸」のやきもの。

19世紀初頭から、「瀬戸」では陶器と磁器の両方を生産する世界でも希少な産地として発展し、その後、ツクリテの高い技術により、全国さらには世界各地で使われたことが発端となっています。ツクリテが様々な釉薬や技法を駆使して生産した多種多様なせとものは、全国の家庭に彩りを与えています。

せとものは、瀬戸で採られた土をこね、手や型で形をつくり、天日で干され、職人たちによって生み出された釉薬をまとい、火で焼かれます。

せとものは、職人のチャレンジ精神と自然の恵みから生み出されています。



市民が語る魅力



瀬戸はやきもののメッカになれる — 加藤令吉（陶芸家、大学客員教授）

歴史が背景にあることに誇りがあったから、瀬戸でやきものをやっていて良かったと思います。瀬戸のポテンシャルがあれば、陶芸家の卵は瀬戸を目指すような、やきもののメッカにできるんじゃないでしょうか。

□千年の陶都

「瀬戸」のやきものは自然と共生しながら生まれ、千年もの歴史を刻んでいます。

それは、この地で良質な陶土が豊富に採れるためです。火に強く、加工しやすいために様々な釉薬や装飾方法を駆使した多種多様なやきものがつくられてきました。また、陶土の成分に優れていたため、古来から高貴とされる白いやきものをつくることもできました。「瀬戸」の良質な陶土は、「瀬戸」だけでなく、全国各地のやきもの産地でも使用され、「瀬戸」の土が日本のやきもの文化を支えており、全国のツクリテからも高い評価を得ています。

また、器だけを生産し続けたのではありません。他のやきもの産地と大きく違い、「瀬戸」のツクリテの技術革新と先見の明により、セトノベルティと呼ばれる置物や装飾品、衛生陶器、碇子、タイル、ファインセラミックスなど、日本の近代化を支える産業に必要な製品を生産してきたことも千年の歴史のなす強さといえます。

「瀬戸でつくれないやきものはない」といわれるほど、「瀬戸」のやきものは幅の広さと奥の深さがあります。こうしたやきもの発展の歴史が、今の「瀬戸」の人々の暮らしやまちなみ、文化の原点といえます。



市民が語る魅力



日本のやきものの歴史が瀬戸の歴史

— 鈴木政成（瀬戸まるっとミュージアム・観光協会会長）

日本のやきものの歴史そのものが瀬戸の歴史といっても過言ではありません。

大きな時代の変化は千年の中に何度もあったはず。

厳しい状況にあったとしても飲み込んでいかなければ。

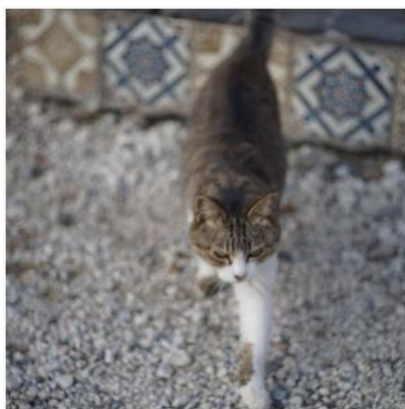
御亭山（おちんやま）から瀬戸川をとおして見渡せる風景が、やきものまちなみ瀬戸の原風景です。

魅力② 陶都を感じるまちなみ

□まちなかのデザイン

エンゴロやタナイタといった窯道具などの廃材をツクリテたちが石垣のように積み上げた擁壁や塀などは「窯垣」と呼ばれ、「瀬戸」でしか見ることができない唯一無二の美しい幾何学模様の景観を創り出しています。また、まちなかに架かる陶製の橋や、建物を彩る陶壁など、何気ない日常の風景に、高いデザイン性を感じることができます。

「瀬戸」では、窯元がひしめき合う昔のままの狭い路地が今も残っています。また、起伏の多い地形から坂道が数多く見られます。大通りから一步入ったその先に、日常の瀬戸の暮らしに出会うことができます。



□古さが新しい

「瀬戸」では、まちの至る所で「懐かしさ」を感じることができます。

尾張瀬戸駅は名鉄瀬戸線の始発駅であり、その周辺には、昔ながらの商店街のアーケードが残り、瀬戸川沿いにはせともの販売店が軒を連ね、やきもののみちを感じさせる景観を創り出しています。また、「瀬戸」には数多くの窯元の工房や窯垣があり、やきもの産地の歴史を感じさせてくれます。

歴史あるまちを感じさせる細い路地や建物が残る一方で、古いものの価値を活かしながら現代に合う形にリノベーションを行い、古民家カフェやアートスタジオなど新しい活動に挑戦する人たちも現れてきています。

古いものを新しい魅力として再生させる、それも瀬戸の魅力です。



市民が語る魅力



商店街をツクリテでいっぱいになりたい — 中井亜矢 (ナカイガラス制作所)

商店街のお店が閉店した話を聞くのは悲しいですね。商店街を少しでも賑やかにしたいという思いがあります。

瀬戸での起業を希望する若者には「ぜひ瀬戸においで」と伝えたいです。手しごとの楽しさ、チャンスがここにはたくさんあると思います。

魅力③ 個性的なまちぐらし

□スローライフ

大量生産・大量消費の時代を終えた今、長い年月を経て人々の暮らしの中で親しまれ、使われ続けてきたものの価値が再認識されつつあります。「瀬戸」のやきものには、長く継承してきたデザインや技法で生産されたものが数多くあり、上質な暮らしを求めるやきものファンたちから高く評価されています。「瀬戸」には、何代も続く老舗に加え、「瀬戸」の空気感にあこがれて新たにオープンしたお店も増えてきました。「瀬戸」のツクリテや風土に魅了された人たちが、この地に着実に根付いてきています。

「瀬戸」では、一人ひとりとのふれあいを大切にしながら、丁寧に手作りのものと一緒に、ゆったりとした時間を過ごすことができます。



市民が語る魅力



ちょうど良いまちのサイズ感が好き

— 千葉麻衣子（自営業、飲食店）

住んでいても工場やその跡があって、やきものを作っていた風景が見えたり、ものづくりをしているまちの空気が良いと思います。

まちもあるし山や川もある。まちのサイズ感が好きです。

大きすぎず小さすぎず。全体的に自分で把握できるサイズ感。人の多さの加減、ちょうど良さが好きです。

□ 家族と地域が近くにある暮らし

「瀬戸」は家族経営のやきもの事業者が数多くあり、家族がとても近く、つながりが深いです。そして、やきものの技や伝統、家庭の味、家族の思い出も引き継がれていきます。

「瀬戸」では、地域活動が盛んで、新しく移り住んできた人と長年瀬戸で暮らす人々が、一緒に自分たちの暮らす地域を育てています。世話好きの人が沢山いて、子どもを面倒見てくれたり、相談にのってくれたりと地域の支え合いもしっかりしているため、まちを歩けば、すれ違う子どもたちから、沢山の笑顔とあいさつをもらうことができます。

また、愛・地球博の開催を契機に、自分たちのまちを盛り上げる活動に積極的に取り組んでいる団体も増えてきました。



市民が語る魅力



寛容で親切なまち — 森宏子（乾物屋店主）

瀬戸には外からの人を受け入れられる土壌があります。すべてに関して寛容で、おせっかいなくらい親切なまちです。

困っている人を見ると「だいじょうぶ？」と手を差し伸べられるところが良いと思います。

魅力④ 大都市に近い自然

□自然の恵み 里山

「瀬戸」は、名古屋都心から電車で 40 分あまりの場所でありながら、豊かな自然に恵まれ、山と丘陵地に囲まれた地形から、人々の暮らしの近くに「里山」があります。

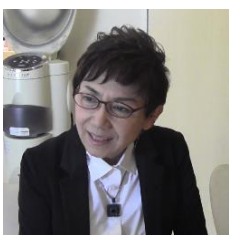
しもはだがわちよう じゃがほらがわ
下半田川町の蛇ヶ洞川にはオオサンショウウオ（国の天然記念物）が生息していたり、「自然の叡智」をテーマとした愛・地球博の会場にもなった海上の森^{かいしょ もり}では初夏には蛍が舞うなど、自然が大切に守られています。

「瀬戸」の人たちは、自然あふれる愛知高原国定公園内の定光寺や岩屋堂などに出かけ、緑豊かな環境で子どもを育て、季節の移ろいを感じながら暮らしています。

※海上の森は、平成 18 年 3 月に愛知県自然環境保全地域に指定されています。



市民が語る魅力



岩屋堂の素晴らしさ — 大竹路恵（美容室オーナー）

ぜひ岩屋堂に行って欲しいです。

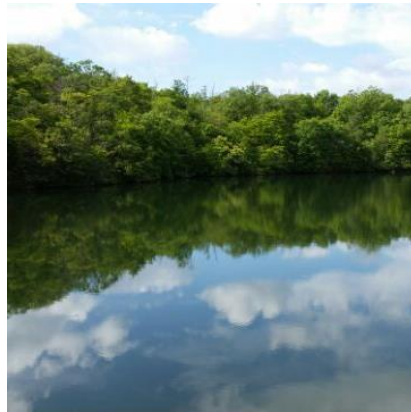
春は新緑のきれいさ、夏は川遊び、秋は紅葉、四季を通して良い。空気が違います。森林浴で気持ちも癒されるし、小さな子どもを連れて川遊びもできますよ。

□ものづくりと結びついた自然

「瀬戸」の暮らしは、自然の恵みから育まれたものです。

先人たちは、地元で採れた良質な陶土をこね、森から切り出した木材で窯を焚き、やきものをつくりました。やきもの産業の発展に伴い、かつては瀬戸川が白く濁ったり、^{すす}煤で洗濯物も黒くなる時期もありました。また、やきものづくりとも深い関わりのある里山も、薪となる木材の伐採により禿山になりましたが、人々の手による植林により、豊かな里山として再生させてきました。

現在でも、「瀬戸」の人たちは、自然の継承者として、引き続き川や森を大切にし、自然と寄り添いながら暮らしています。



市民が語る魅力



世界一の椿の森を創りたい — 田中博晶（瀬戸椿の会）

今はモノの時代から、自然などを求める時代です。
瀬戸中に椿の花を増やしていきたいと思えます。
そして瀬戸の地に「日本一」の椿の森を創ることで、日本中から人を呼び込みたいと思っています。

魅力⑤ ツクリテが身近にいる

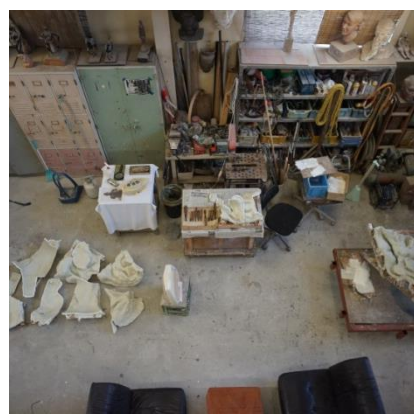
□ツクリテ

「瀬戸」ではやきもの製造に携わっている人がたくさんいます。

ろくろ師、絵付師、原型師、製型師、鋳込師などのやきものの製作過程ごとに、ドイツのマイスターのような専門職人がいます。ですから、「瀬戸」には、陶芸家だけではなく、高い技術をもった職人がたくさんいます。

「瀬戸」には、県立瀬戸窯業高校や新世紀工芸館、瀬戸染付工芸館、窯業技術専門学校など、次世代のツクリテを育てる様々な場があり、自立して創作活動を行える場もあります。新たに創作活動をする人たちを受け入れる土壌もできており、ガラスや木工、デザインをはじめ、CGなどIT分野まで幅広い分野で活動するツクリテが各地から集まっています。

さらに、やきもの産業とともにうなぎ料理や瀬戸のB級グルメである瀬戸焼そばなど、食分野のツクリテも数多くいます。「せと・しごと塾」でビジネスを学び、新たなツクリテとしてチャレンジする人も増えてきました。「瀬戸」には、ツクリテを育てる環境があり、ツクリテたちが集う魅力があふれています。



市民が語る魅力



ものづくりをしている人に出会えるまち — 亀谷政代司（彫刻家）

何かしらものづくりをしている人に出会えるのが瀬戸のまちの魅力です。ここに住んで何かをつくって残したいという若者を呼び込みたいです。

様々な分野のツクリテが力を合わせて、瀬戸のまちのために何かつくることができたら良いですね。それが私の夢です。

□ツクリテが語る瀬戸について

瀬戸にはツクリテがたくさん身近にいます。
カッコいいツクリテたちがいるから、瀬戸のまちはカッコいい。
ものづくり文化を支えるツクリテたちが瀬戸の魅力。



瀬戸はものづくりをする場所であって欲しい — 水野雄介（陶工）

一番良いのは本物を見てもらうこと。
そこから発せられる力強さ、エネルギーは多くを語らなくても感じ取ってもらえます。
これからも瀬戸はものづくりをする場所であって欲しいです。



染付を作ることで瀬戸に貢献したい — 加藤真雪（染付職人）

職人として、染付を作ることで瀬戸に貢献したいです。

瀬戸にこんな良いやきものがあるということを日本の人にも海外の人にも伝えたいので、良い作品を作り続けたいです。



世界的に見ても技術力の高い職人のまち

— 岩木勇一郎（CGクリエイター）

瀬戸は世界的に見ても技術力の高い職人のまちです。
今でもまちに残る職人の地に足のついたメッセージに感銘を受けます。
今はものづくりが重要視されているので、それらがこの時代に意味を持つんです。



練り込み技法で瀬戸の良さを伝えたい — 水野智路（陶芸家）

SNSでも取材でも実演でも、最初は練り込み技法に興味を持ってくれますが、交流する中で瀬戸の良さを伝えることができます。

やきものはもちろんですが、ガラスや木工、色々なものづくりが盛んになれば、瀬戸のまちも自分も刺激を受けるでしょう。



瀬戸に根付いて作品を生み出したい — 植松ゆりか（美術家）

瀬戸の人は職人に慣れ親しんでいて、ものづくりをする人に優しいので瀬戸が好きです。

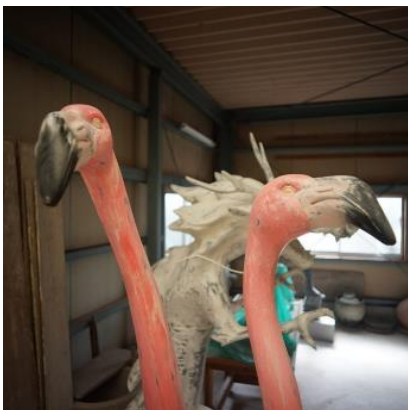
美術家として瀬戸に根付いて、このまちで作品を生み出していきたいです。



新たな発想が生まれてくる — 鈴木紹陶武（彫刻家）

これだけ作家が住んでいるまちは全国を見てもないと思います。

彫刻家として制約（ルール）がある中で創作しています。どうやってやろうかと色々な発想が新たに生まれてくるんです。

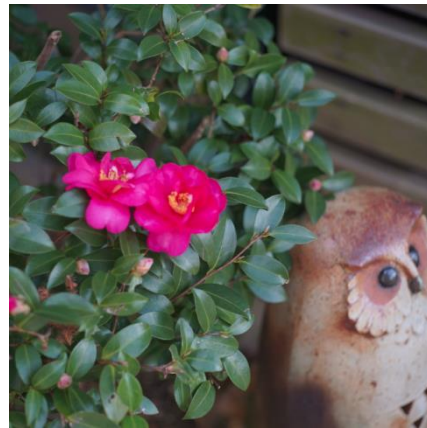


□ツクリテに近い暮らし

「瀬戸」には、ものづくりの文化と寄り添い、暮らしを楽しむ人が沢山います。

中心市街地をはじめ品野、赤津、水野、洞など市内の広範囲にわたって窯元があり、多くの市民にとって、やきものは非常に身近な存在です。窯元はもちろん、一般家庭の多くが瀬戸焼を日常的に使い、暮らしに彩りを加えています。

また、数多くの上質なやきものに触れてきた「瀬戸」の人たちは、料理で器づかいを楽しんだり、お茶やお花を学ぶなど、上質な日常を楽しんでいます。



市民が語る魅力



瀬戸でしか感じられないものづくりの空気 — 水野教雄（陶芸家）

瀬戸は粘土の質が良く、また粘土、道具、釉薬、木箱など、やきものに関わる多くのものが集約されているので、陶芸家にとって素晴らしい環境なんです。

瀬戸にはツクリテがたくさんいるので、同じツクリテとして刺激がたくさんあるんですよ。ツクリテが右往左往している雰囲気を持ったまち。その空気を感じてもらえると思います。

